

酒々井町

郷土研究会会報

第117号

平成17年7月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

本佐倉城跡に触れて

大坂俊男

酒々井町の一角に三十五万平方メートルを誇る中世に覇権を握っていたお城跡があります。

毎日、この調査現場に出かけ城の春夏秋冬を肌で感じていると別人になったようです。

春は、城山、倉跡を歩くと木々草花の息吹を感じながら新鮮な空気に触れ、トンボや蝶たちも姿を現します。この時期からお城全体の木々が枝葉を伸ばし全容が変わり始めます。

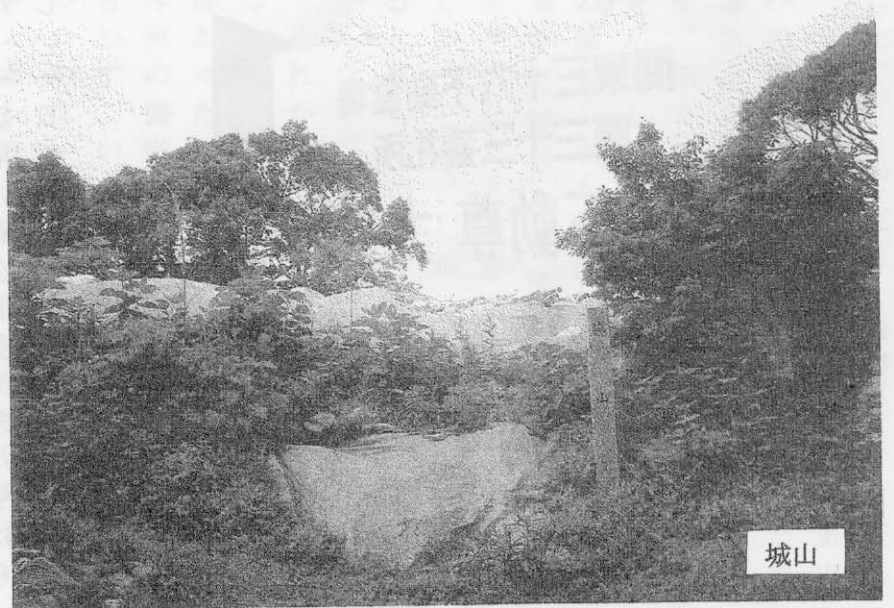
夏は、空掘りの竹林を歩くと涼しい風が肌に触れて通り過ぎて行きまです。日の当たらない場所には、きのこ達が隠れるようにたくさん顔を見せます。

秋は、城一帯が紅葉の時期を迎え木々が衣装替えをしますし、栗、柿、

椎の実、アケビ等も実ります。真っ赤に燃えるもみじはとてもきれいです。

冬は、木々が葉を落とし城の姿を鮮明に映し出します。冬霞がでる朝はお城全体が雲の中に隠れてしまいい、時間を追ってお城が姿を現すときは感動をも覚えますし、ここが酒々井とは思えない美しい景色を見せる時もあります。雪に覆われた城もなかなか良いもので、一面銀世界となり全てが凍りついてしまします。そうそう、冬季に城山で調査をしていますと寒い筑波降ろしの北風が高い土塁に阻まれ、冬の日差しも暑いくらいのときもあります。さすがにお殿様の御殿跡と思わずにはいられませんが、東山虎口は狭い切通しになっており筑波降ろしの突風が駆け抜け非常に寒いところになります。城内の風についても、皆さんに触れていただきたいと思

ます。城山の風、奥の山の風、倉跡の風、セツテイ山の風、幾つかの空掘の風、東山馬場の風、物見の風等、同じ風でも場所によりすべて異なる風が吹いてくるのです。東山馬場と倉跡最上部では異なる風が吹きますし、これもきつと、お城を築城する高度な技術によるものと思われ



城山

お城に住んでいる住人もたくさんいます。各郭には野うさぎが住み、たまに顔を見せてくれます。渡り鳥も沢山来ますが人懐こい鳥もいてそばで美しい声を聞かせてくれる時もあります。もちろん、うぐいすも良い鳴き声を披露してくれます。空を高く見上げますと大空をゆうゆうと「チョウゲンボウ(タカ科の鳥)が風に乗って飛んでいます。蛇も何種類か顔を出す時もありますから十分注意してください。

悲しいことに訪れた皆さんのうち、心無い人達による植物の採取が後を絶たないのが残念です。十五年前群生していた山百合は一本も無くなってしまいました。持ち帰るのではなく、再度、このお城に見学に来て観賞していただけたら幸いです。

毎日毎日、お城に足を運んでいますと数多くの場面に触れることができます。お城とは会話ができます。何が、何かを語りかけてくれます。皆さんにも、幾度も足を運んでいただきたいと思えます。そして、皆さんなりにお城に触れていただき、お城を守っていただければ幸いです。

千倉方面見学会に参加して

石井 康子

三月四日昨日の天気予報通り起きたら一面雪化粧。心配で役員さんに電話をしました。一〇分遅れでいざ出発です。バスの窓はワイパーがフル回転しても雪が叩きつけておりました。一ノ宮辺りから海が見えてきました。一ノ宮宮垣から海が見えてきたうな灰色でした。その後雪はだんだん無くなり遠くの空は明るみを帯びてきました。

酒々井を出発して3時間半やつと千倉に到着です。先ずは昼食。食べきれないほどの海の幸、新鮮で美味しく大満足いたしました。

今日の見学地高塚不動尊に向かいました。お不動尊は畑を抜け山の麓にありました。九十二段の階段を上りふと振り返ると遠くに海が見えすばらしい眺望でした。奈良時代、東大寺の僧正が亡くなった母の菩提を弔うため修業の旅に出、この地にお堂を営まれたそうです。その後、魔性が現れ大海龍王に助けられ、僧正はこの大海龍王即ち不動明王の尊像を敬刻し堂中に奉安したそうで、現

在は海陸交通の守り本尊として信仰を集めているそうです。

お参りをした頃には、青空が広がり暖かな日差しが降り注ぎ始めました。帰り道、畑にはキンセンカ、ソラマメの花が咲き、サンガイソウ、ナズナの花ともう春爛漫でした。

帰路の車窓から見えるお花畑、灰色だった海が紺碧に変わり絶景でした。一足早い春を満喫できたすばらしい一日でした。



豊かに美味なる観察会

亀井 香久乃

郷土研による植物観察会も、二十一回目になる今回は四年前に行った場所、西井戸周辺だった。植生状態は以前と殆ど変化は感じられないが、今回は里山が大変きれいになつていたことを嬉しく思った。

山猫の目草、山鳥兜、蔓人參なども残存を確認できたのでほっとした。なかでも圧巻と言えるのは、小臭木(ミカン科)が雌雄並んで生えていて花盛りが観察できたことだ。この木が生える場所は、自然度の数値の高い所と言われているので、当町酒々井には近くに住宅があつても何百メートルか歩けば空気の清浄度は高いことが証明される。約二時間の観察はあつという間に過ぎた。

ハルジオン・コオニタビラコ等を採り本日の楽しみの野草料理の食材とした。調理室では昼食の用意を整えて待つておられ、入室するや男性方も一斉に食器並べを手伝い、瞬間にテーブルには凝縮された酒々井の春が広がった。天ぷら、和え物、おにぎり、すべてが美味しくいずれの顔もほころんだ。中でも本日は津田教育長をはじめ

他職員二名の御来席で、参加者の喜びもひとしおだった。

食後、教育長の手軽料理のお話もあり、一同頷きつつ清聴した。最後に超高齢者の私、足取りも覚束無い者の他愛ない話にも耳を傾けて下さった皆様方に深く感謝申し上げます。



西井戸里山

野草観察会に参加して

大沢 博

四日間降り続いた雨も晴れて絶好の観察日和、皆さんの思いが天に通じた感じの好天に恵まれました。

昨年十月の観察会に始めて参加させて頂き、今回二回目の参加ですが、皆さんが本当に自然の風景や草花を愛して真剣に観察している様子を見て心から感動いたしました。是非私も仲間に加えて頂きたく、今回ご挨拶も兼ねて原稿をお引き受けしま

した。どうぞ宜しくお願い致します。定年近くなるまでは、自然や里山への造詣も薄く、道端の雑草など至極当たり前に生えているものであり、あまり意識して見る事もありませんでした。ところが退職して勤めの煩わしさから開放され、周囲を見渡すと雑草や花壇の花々、里山の木々がなんと新鮮で美しく見えたことか・・・しかし改めて眺めてみると草も、花も、木も名前が全く分からないことに気付きました。

それから、書店めぐりが始まり一つの花の名前を調べるのに何ヶ月も掛かった事もありました。それでも写真の撮影時期と今見ている時期と合わず、いくら比べて見ても、区別のつかない野草が多くあります。「ヒメムカシヨモギ」と「オオアレチノギク」、「ムラサキサギゴケ」と「トキワハゼ」などはその一例です。

本当に小さな事かもしれませんが、未だ納得が行かず見るたびに「お前はどっちだ!」と心の中で叫んでおります。これからの野草観察でこれらの野草との出会いがあり、先生や皆さんからご教授頂ける機会があることを楽しみにしております。

「伊豆・葦山方面」見学会

藁輪 光正

二日間共、全員「三九名」十分堪能し無事下山してきました。今、楽しかった見学会を振り返っていると、参加出来なかった方にも一寸お裾分けします。

五月十日。途中渋滞もなく早や小田原市。坂東五番札所「勝福寺」に詣でる。銅葺きの本堂には十一面観世音菩薩が安置され、市指定重文の船形青銅水鉢、県指定で七百年経過の大銀杏に歴史の深さを感じた。

「小田原城」。戦後復興された天守閣から四方の眺望が最高。各階の展示物も貴重な資料が多い。広大な城内の市天然記念のイヌマキの大木で瞑想にふけると当時の権勢が偲ばれる。城下にて国登録の文化財である唐破風入母屋造りの老舗での昼食も一層趣があった。

次はアツと言う間に箱根町「早雲寺」に到着。住職から文化財指定の襖絵や江戸時代の貴重な書、掛け軸の説明を聞く。立ち入り禁止の史跡庭園「枯山水」を本堂から見学。裏山にはヒメハルゼミが棲息。年一回

「十一月」文化財の一般公開前に参観出来たことに感謝。続く葦山町の真言宗、願成就院へ。当寺でも住職が快く迎えてくれ、名工の坐像、立像が国の重要文化財である旨の説明を受けることができた。

また同町には、代官所であった江川家住宅が重要文化財として所在する。母屋は相当に古く茅葺屋根の単層入母屋造りに当時の諸資料が保存良く展示されている。

車窓より頼朝が流人生活を送った「蛭ヶ小島」(現在は公園になっている)を横に見て熱海市網代の宿「松風苑」に向かった。

五月十一日。松風苑の庭を見学。前方に相模湾が望め、後ろは名庭園であり、園内は散歩コースで奥の方まで歩を進めると、自家源泉の引揚小屋もある。かつては日本赤十字社、初代社長の別荘だったとのこと。

本日も元気に「ハーブ・ローズガーデン」に向かう。全山に香りが充満し、アロマテラピー効果大。ローズアイスクリーム、ローズティーが美味。相模湾の眺めが最高。

MOA美術館。創立者岡田茂吉の頭文字から命名。世界的な美術品の

陳列に目をみはる。

頼朝拳兵石橋山古戦場ゆかりの佐奈田霊社に参詣。人気の飴が瞬く間に売り尽くされ、寺からお札に住職手作りの竹楊枝兼ナイフが全員にプレゼントされたエピソードあり。

最後に南足柄市のビール工場を見学の後、出来たてビールの試飲に喉を潤し、新緑に萌える伊豆の山にサヨウナラ。



「町内史跡巡り」に参加して

佐藤 利泰

宗吾参道駅に着くと生憎小雨が降
つており、ウォーキングの楽しさ半
減かと思ひながら出発。

まず大仏頂寺へ、本堂にて郷土研究
会高木副会長の説明を興味深くお聴
きしました。大仏頂寺では寺宝の舌
出しの鈴を拝見、弘法大師が持つて
きたといういわれの貴重な宝物で、
年に一回しか公開されないとの事、
今回は特別我々の為にお見せいた
だいたことは有意義で大変有難く感
じました。なお、当寺には由緒ある弘
法の滝や処刑された義民佐倉宗吾に
かわり深い光全和尚の墓碑があり
ますが、その説明や由緒などの揭示
があれば、訪れた人は一層興味を惹
かれるかと思ひました。

新光寺での六地藏の説明は印象に
残り、今後お地藏様と道端や寺院で
対面すればきつと副会長の解り易い
説明を思ひ浮かべることでしょう。

無住寺の雰囲気を十分に感じなが
ら、聖徳太子といわれる童子像に思
いを馳せてお寺を後にしました。

今回参加した主な理由は寺院もい

くつかあつて、酒々井タウンカレッ
ジコースでの自主学習「町内寺院に
おける歴史と文化財等の調査・研究」
というテーマで約半年にわたり学習
した経緯があり、大仏頂寺と新光寺
については郷土研から詳しい内容を
お聴きし、あらためて自分達の研究
内容を見つめ、認識を新たにすこ
とを目的として併せて健康ウォーキ
ングも兼ねて参加させていただくこ
とでした。

初夏を感じる田園の若苗と新緑の
木々を眺めながら、ときには民家の
庭に咲く季節の花等を観賞しながら
歩いたことは楽しく快い疲れであり
ました。

前出の自主学習のまとめ、「町内寺
院における歴史と文化財等の調査・
研究」は町の図書館で閲覧できます
ので、何かの折に見ていただければ
幸いです。



下岩橋双体道祖神

計報

去る四月二十六日、長い間、郷土
研究会会員で元酒々井町議会議員の
石井明さんが逝去されました。
九十三才でした。ご老体にもかか
わらず今年一月の郷土研究会総会に
も出席され、活動報告を熱心に聴か
れていた姿が目につかびます。
郷土研究会に厚い思いを寄せて、
ご芳志をご寄贈いただき一同感謝い
たしております。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

「浜離宮方面」

高木 正浩

梅雨入り間近かの六月七日、浅草から浜離宮へ東京を再発見する小さな旅をしました。

大きな提灯の下がった雷門を入ると、仲見世のざわめきが始まっていました。人形焼、手焼きせんべい、雷おこし、花かんざし、祭り半纏など賑やかに並ぶ店に修学旅行生がいくつもたむろしていました。

本堂に入って秘仏の観音様にお参りすると、高い天井の空間に安らかた。つつまれているような気がしました。

隅田川ラインの水上バスは十三の橋をくぐりました。最初は浅草のシンボルカラーの赤い吾妻橋、松尾芭蕉像を遠く望む公園を過ぎ、大川端の億ション群を過ぎて、最後の勝鬨橋はもう一度開閉するには八億円かかるとか、ガイドさんの説明を聞きながら浜離宮に到着。三五〇年前に将軍家の鷹狩場に甲府宰相松平綱重が浜屋敷と呼ばれる別邸を建て、六代家宣から浜御殿と改めて将軍家のものとなり、明治維新の後、皇室の

離宮となったところです。

昭和二十年に東京都に下賜され、翌二十一年から公開されています。

海水を引き入れた潮入りの池と、二つの鴨場を持つ江戸時代を代表する大名庭園です。現在はまわりのノックのビルから覗かれているような奇妙な空間です。閑静なたたずまいを突然ヘリコプターの轟音が邪魔しました。庭の一角では、愛知万博に出演する二人の落語家が記者発表をしていました。

浅草寺と浜離宮二つの江戸文化を現代の目で眺めた一日でした。



三百年の松

会計報告

春の野草観察会

(平成17年4月14日)

参加者24名

収入 会費 100円

100円×24=2,400円

支出 品代等 3,826円

不足分 1,426円(本会計より補助)

教育委員会より3名会食に参加。

伊豆・葦山方面

(平成17年5月10日~11日)

参加者39名

収入 会費 20,000円

20,000円×39=780,000円

支出 (有)ヨシ観光 750,270円

諸雑費 47,570円

797,840円

不足分 17,840円(本会計より補助)

郷土研日誌

月日	内容	参加人員	月日	内容	参加人員
3・25	会報印刷	4	5・23	浜離宮方面下見	4
3・29	会報発送	17	5・25	編集会議	6
4・2	勉強会(日本の神々)	16	5・27	義民ロード下見	2
4・8	一泊見学会受付	3	5・28	運営委員会	20
4・14	野草観察会	25	6・4	史談会	13
4・19	古文書を読む会	10	6・7	名勝探訪(浜離宮方面)	19
5・7	史談会	15	6・10	編集会議	7
5・10~11	一泊見学会(伊豆・葦山)	39	6・18	編集会議	7
5・15	町内史跡巡り	40	6・21	編集会議	5
5・17	古文書を読む会	10	6・24	編集会議	5

郷土史講座の

ご案内

「古墳時代と酒々井」

八月二十八日(日)

酒々井町教育委員会の、木内達彦氏のお話をお聴きします。

三世紀後半から七世紀にいたる古墳時代には、前期にヤマト王権が成立し、後期には蘇我氏や物部氏などの古代豪族が活躍しました。

酒々井町には、岩崎遺跡(上岩橋)をはじめとして、大鷲神社(上岩橋)、鬼塚(本佐倉)、小盛田(墨)などの古墳が知られています。新堀のカンカムロも、この時代の横穴墓です。

郷土を愛する気風が仄々聞こえてきている今日此頃、酒々井の昔をもっと良く知り、有形無形の文化財保存の意義を高めていただきたく多勢の方々のご聴講を希っています。

見学

案内

「夏の野草観察会」

八月三日(水)

雨天 八月四日(木)

春の観察会で行った西井戸のヤブミヨウガの花の群落を観察します。藪の中を歩きますので虫除け対策をしてご参加ください。

「義民ロード」

九月三十日(金) 雨天中止

水神の森には、任侠の渡し守甚兵衛の供養堂がひっそりとたっています。

ここから約一時間歩くと宗吾旧宅に着きます。ここは重税に苦しむ農民を救った木内惣五郎の生家と伝えられています。現在も子孫である木内氏が住んでいます。

車道に出ればらく進むと台方の麻賀多神社です。印旛郡の内にある麻賀多十八社の惣社で平安時代の中頃に出来た「神名」に記載されている由緒ある神社です。境内には



樹齡千三百年の神木の大杉が県の天然記念物に指定されています。三十分ほど歩くと、宗吾霊堂の名で知られる東勝寺です。入り口右側には、香華の絶えない惣五郎父子のお墓があり、山門をはいると正面に義民惣五郎をお祀りした大本堂があります。

あとがき



只今、梅雨の真つ盛りです。今年には台風四号が梅雨前線を運んできました。台風と梅雨には、今年の豪雨禍が思い出されます。今年はやかな慈雨で終わって欲しいと願うばかりです。さて、史談会では、現在「古今佐倉真佐子」を読み、二百八十年前の佐倉の様子を勉強しています。時には外に出掛け、歴史の現場を訪れ、遠い昔の有様を感じ取っております。なかなか楽しい講座です。このテーマも間もなく終わりますが新しい題材での勉強が始まる機会に、是非、参加されてみては如何でしょうか。



郷土研行事案内

平成17年7月～9月

史談会	7月 2日(土) 13:30 公民館 「古今佐倉真佐子」⑱ 講師：高橋健一先生	8月 休講	9月 3日(土) 13:30 公民館 「古今佐倉真佐子」⑳ 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会	7月 19日(火) 13:30 公民館 「島田家文書」㉑ 講師：青木朝次会長	8月 休講	9月 20日(火) 13:30 公民館 「島田家文書」㉒ 講師：青木朝次会長
野草観察会	8月3日(水) 雨天代替 8月4日(木) (問い合わせ 13時～15時まで 犬島) 集合時刻・場所 16:00 公民館 観察場所 酒々井・西井戸方面 17:00頃 現地解散予定		
郷土史講座	<p>「古墳時代と酒々井」</p> <p>日時 8月28日(日) 13:30 開場 13:00</p> <p>講師 酒々井町教育委員会 木内 達彦 先生</p> <p>会場 中央公民館 研修室 (2階)</p> <p>後援 酒々井町教育委員会</p>		
名勝探訪	<p>「義民ロード」</p> <p>9月30日(金) 雨天中止 (問い合わせ 寺本) 集合時刻・場所 8:20 京成酒々井駅</p> <p>京成酒々井駅 — 公津の杜駅 — バス — 甚兵衛渡し・・・水神の森・ ・ 甚兵衛供養堂・・・宗吾旧宅・・・台方・麻賀多神社・・・ 宗吾霊堂(東勝寺)「昼食」・・・宗吾参道駅 15:30頃解散予定 (一部コース変更の場合あり)</p> <p>弁当・飲み物・敷物持参。 残暑のため帽子もお持ち下さい。約8kmです。</p>		